View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by Hosei University Repository

法政大学図書館司書課程
メディア情報リテラシー研究 第1巻2号, pp.52-56

国際協働学習とiEARN

栗田智子
実践女子大学

概　要

iEARN（アイアーン ）は、世界 140 の国と地域が参加する国際教育ネットワークで、その目的は、グローバルなパートナーシップを育て、地球規模の問題を解決するための国際協働を行える若者を育てることである。協働学習と SDGs の観点から、iEARN の国際協働学習について分析・考察した。SDGs の実現に向けて、世界との協働が必要とされる今日、iEARN が果たす役割は大きいのではないかと思われる。

キーワード：iEARN（アイアーン）、国際協働学習、SDGs、協働学習

1.　はじめに

世界 140 の国と地域が参加する国際教育ネットワーク iEARN（アイアーン）は、SDGs とも密接に関わり、Learn with the world, not just about it.（世界と共に学ぼう、ただ世界について学ぶだけではなく）というモットーを掲げ、国際協働学習を約 30 年にわたり推進してきた。日本では、JEARN（特定非営利活動法人　グローバルプロジェクト推進機構）が、iEARN の日本センターとして活動している。

第 28 回メディア情報リテラシー研究会（SDGs とメディア情報リテラシー）において、その国際教育ネットワーク iEARN と国際協働学習について発表した。その内容をここに報告する。まず、iEARN の概要に触れ、協働学習の視点から iEARN の国際協働学習を考察する。さらに、SDGs と iEARN プロジェクトのつながり、そして今後の課題について述べる。

2.　iEARNとは

iEARN（International Education and Resource Network）は、世界 140 の国と地域、3 万以上の学校・団体が参加する国際教育ネットワークである。1988 年、アメリカとソ連の間で行われた NYS-MSTP（New York State- Moscow Schools Telecommunications Project）という協働学習の成功がきっかけとなり、アメリカのピーター・コーペン（Peter Copen）により設立された。

冷戦時代の危機感の中で、ニューヨーク州の 12 の学校とモスクあの 12 の学校をつなぎ、アメリカとソ連の生徒たちが協働学習を行うことにより、相互理解と相互受容の精神を育て、地球市民として地球規模な問題を平和的に解決することを目指した。（福井 2009）

iEARN の理念は、iEARN 憲章の序章にあるように、「地球および人々の健康と福祉に有益な貢献をするようなプロジェクトを若者が行えるようにすることである」。また、iEARN 憲章 1 章 1 条には、12 の教育目標があり、「違った価値観や文化の背景を持った人たちと協働学習することで、学習者が異なる価値観を受容し、広い視野を持ち、課題を解決しよう」とする前向きで未来に対して肯定的な姿勢を持つことを目的としている。（福井 2009）このように、グローバルなパートナーシップを育て、地球規模の問題を解決するための国際協働を行える若者を育てることが、iEARN の目的である。iEARN は、国際協働そのものに教育的価値を見出し、様々なテーマのプロジェクト学習を世界の生徒たちが協働しながら行っている。

iEARN の国際協働学習を支える仕組みはユニークで、本部と支部という上下関係のある組織ではなく、会員が公平かつ平等なパートナーシップを維持できる仕組みになっている。各国の iEARN センターが、自国の会員管理を行い、そのセンターの集合体が iEARN である。各国のセンターから、「カントリーコーディネーター」を選出し、そのカントリーコーディネーターが集まって、iEARN としての様々な決定を行っている。また、プロジェクトを立ち上げた会員は、そのプロジェクトの「グループファシリテーター」として、プロジェクトを推進する。このように、各国のセンターのカントリーコーディネーターと各プロジェクトのグループファシリテーターが、iEARN の国際協働学習が円滑に行われるように活動し、平等なパートナーシップを持つネットワークを支えている。

3.　協働学習としてのiEARNプロジェクト

iEARN には、5 歳から 18 歳（K － 12）を対象とした 100 以上の様々なプロジェクトがあり、プロジェクト型の学習（Project-based learning）を行なっている。どの iEARN プロジェクトにも、以下の 4 つの要素が含まれている。（*iEARN Teacher's Guide to Online Collaboration & Global Projects*）

1. 教員や生徒によってデザインされ , 始められる。
2. 国際的なパートナーとの結びつきによって構築される。
3. 世界の同世代の聴衆との交流を通して行われる。
4. 協働の成果物の創造によってすすめられる。　（p.15 筆者抄訳）

特に、1 番目の、プロジェクトが教員や生徒によってデザインされ、始められるという点が、iEARN のユニークな点である。通常、国際教育を行う団体は本部がプロジェクトや教育プログラムを作り、それを学校現場に提供することが多い。しかし、iEARN では、プロジェクトを立

ち上げるのは、会員である教員であり、現場の教員が自ら立ち上げたプロジェクトに、他の会員の教員が参加する形で国際協働学習が始まるのである。具体的には , ある学校の教員または生徒の独自の発想によるプロジェクトを ,iEARN が運営するウェブサイト上のコラボレーション・センターに登録し , それを見た世界中の興味を持った教員や生徒が , オンライン上で学習に参加するというシステムである .（文部科学省国立教育政策研究所 & JICA 地球ひろば共同プロジェクト , 2014）

国際協働学習における交流の方法は様々で、主に、iEARN のサイトにあるコラボレーションセンターのディスカッションフォーラムでの投稿、メディア（写真、ビデオなど）の共有などの非同時性のオンライン交流を行っている。また､ZOOM などによるビデオコンファレンス（VC）という同時性のオンライン交流、そして、年 1 回の世界大会のような、会員である教育者と生徒たちが実際に顔を合わせる交流も行っている。

iEARN の国際協働学習は、どのような協働学習であるのか。第一義的には学習活動に「協働」を用いる学習形態を「協働学習」と呼ぶが、坂本（2008）は、次の 3 つの要素が協働学習に不可欠であると述べている。ここでは、各々の要素について iEARN の国際協働学習を分析、考察する。

「第一に、他の組織や地域、異なる文化に属していたり、多様で異質な能力を持った他者との出会いが前提となる。教室内に「他者」が存在する場合は教室の中での『協働学習』が可能になるが、多くの場合、教室外の組織や地域、文化に目を向けることになるだろう（坂本 2008,p.55）

iEARN の協働学習は、異なる地域、文化に属した多様な他者との出会いが前提であり、国際的なパートナーと世界の同世代の聴衆の存在が、国際的な協働を可能にしている。（*iEARN Teacher's Guide to Online Collaboration & Global Projects*）

「第二に、学習者の高い自立性と対等なパ - トナーシップ、相互の信頼関係の構築である。」（坂本 2008,p.55）

iEARN の場合、学習者が低年齢の場合もあるので、教員がファシリテーターとして、学習者の自律性を育て、対等なパートナーシップを構築できるように関わっていく必要があると考えられる。教員用指導書（iEARN Teacher's Guide to Online Collaboration & Global Projects）の中でも、「相互の信頼関係は、グローバルプロジェクトの成功の鍵である」（p.15）と強調されている。生徒間の信頼関係と同様、教員にとって、プロジェクトにおけるパートナー校の教員との間の信頼関係も重要である。多様な教育システム、時差、多忙なスケジュールや学校の年度の区切りの違い、文化の違い、言葉の壁、そして直接の会話の欠如などを乗り越えて、海外のパートナー校との協働作業を遂行する。年 1 回の世界大会である iEARN Conference と Youth Summit は、会員である教員や生徒が一堂に会し、信頼関係を構築する貴重な機会となっている。

「第三に、学習目標や課題、価値観および成果の共有である。「協働学習」はプロジェクト型の

学習であり、参加する学習者同士を結びつけるのは、共有された学習目標や課題の達成への強い意思に他ならない。それは他者同士の出会いから生まれた矛盾や葛藤を止揚し、新たな共同体と価値観を創造することにつながる。」（坂本 2008,p.55）

iEARN の国際協働学習は、グローバルなプロジェクト型の学習であり、プロジェクトに参加する生徒は、共通の目標や課題を持ち、成果物の共有を行う。多様な文化や考え方を持つ生徒たちが、iEARN プロジェクトを通して、新たな共同体と価値観を創造することにより、地球および人々の健康と福祉に有益な貢献ができることを目指している。

このように、iEARN の国際協働学習は、教育現場から生まれたプロジェクトを使い、協働学習としての必要不可欠な 3 要素を踏まえた学習を推進している。

4.　iEARNプロジェクトとSDGs

iEARN プロジェクトは、健康、環境、食料安全保障、市民教育、平和教育、リテラシーと教育、社会的企業、女子のエンパワメントのような 21 世紀の実世界に関する解決すべき様々な課題を扱っており、そのプロジェクトが、SDGs の何番に貢献するものであるかを、そのプロジェクトを立ち上げたグループファシリテーターは、iEARN のサイトで明示している。また、同サイトでは、会員が、SDGs から関連するプロジェクトを検索することも可能である。

例えば、「Finding Solutions to Hunger」というプロジェクトは、世界の飢餓問題について調べ、解決するためにどのような行動をとるべきかを考えるプロジェクトであり、SDGs の「1.NO POVERTY」と「2.ZERO HUNGER」と繋がっている。また、発展途上国 9 カ国の 9 人の少女のドキュメンタリーフィルムを見て、教育について考える「Girl Rising- Education for All」というプロジェクトは、「4.QUALITY EDUCATION」と「5.GENDER EQUALITY」を掲げている。また、平和を考えるプロジェクトである「Machinto ― Hiroshima for Peace」は、「16. PEACE,JUSTICE,STRONG INSTITUTIONS」と「17.PARTNERSHIPS FOR GOALS」に連動している。

このように、iEARN は、SDGs に関連したプロジェクトを推進している。しかし、iEARN は、SDGs が誕生する前から、世界で解決すべき課題を扱い、問題解決のためのグローバルパートナーシップを重視してきた。その意味では、すべての iEARN プロジェクトは、「17. PARTNERSHIPS FOR GOALS」に通じているとも言えるかもしれない。

5.　今後の課題

SDGs の実現に向けて、世界との協働が必要とされる今日、iEARN の国際協働学習が果たす役割は大きいのではないかと思われる。「持続可能な開発のための教育」であるだけでなく、グローバル時代や AI 時代に必要とされる「21 世紀型スキル」、つまり、創造性、批判的思考、問題解決、コミュニケーションと協働、ICT、情報リテラシーなどの新しいコンピテンシーの教育

にも貢献できるかもしれない。なぜなら、iEARN プロジェクトを行うために、生徒たちは、これらのスキルを実際に使わなければならないからである。

しかしながら、課題も多い。国際協働学習は、日本ではまだ新しい教育アプローチであり、学校現場への導入には新しい仕組みが必要である。（栗田　2019）iEARN の日本センターである JEARN では、地域連携やグローバル教育の機会が求められている大学を拠点として、大学生がファシリテーターとなり、小・中学生を対象に iEARN プロジェクトを行う JEARN Youth Project が 2017 年にスタートしている。さらに小中高大・民の連携により、ファシリテーターとしてのスキルや、学習指導要領と iEARN プロジェクトを構成させた授業の計画などの研究開発に取り組む必要もあると思われる。

今回、第 28 回メディア情報リテラシー研究会（SDGs とメディア情報リテラシー）に参加し、様々な分野の方と情報交換することができた。今後も「持続可能な開発のための教育」や「多文化共生」などの関係団体との協働の機会を持ち、iEARN を発展させていければ幸いである。

参考文献

iEARN Teacher’s Guide to Online Collaboration & Global Projects. Retrieved October 15, 2019, from https://iearn.org/assets/resources/32498_iEARN-Teachers-Guide.pdf

栗田智子（2019）.『「アイアーンの国際協働学習」とは何か---国際協働, プロジェクト学習, 主体的・対話的で深い学び，グローバル・コンピテンスの視点から---』、国際協働学習 iEARNレポート、p.2-7. https://www.jearn.jp/japan/iearn-report/ISSN24340049_2018.pdf（2019年10月15日閲覧）

坂本旬（2008）『「協働学習」とは何か』、生涯学習とキャリアデザイン、p.49-57. 法政大学

福井良子（2009）『国際協働学習の普及におけるNPOの課題と役割』、2009年度修士論文 神戸大学大学院　人間発達環境学研究科.

文部科学省国立教育政策研究所・JICA地球ひろば共同プロジェクト.（2014）『グローバル化時代の国際教育のあり方国際比較調査 最終報告書第2分冊』、独立行政法人国際協力機構地球ひろば・株式会社国際開発センター（IDCJ）.

https://www.jica.go.jp/mobile/hiroba/teacher/report/prmiv10000002sqn-att/comparative_survey02_01.pdf（2019年10月15日閲覧）